

大田市教育魅力化プロジェクト

令和3年度活動報告書

大田市教育委員会
教育魅力化推進係

目次

〈大田市の教育魅力化について〉

- 大田市の教育魅力化 ▶ p.1
- 教育魅力化グランドデザイン ▶ p.2
- 取組の4つの柱 ▶ p.3

〈高校魅力化〉

- 大田高校の教育魅力化 ▶ p.4-5
(総合的な探究の時間・地域みらい留学への参画・大田高校魅力化コンソーシアムの取組)
- 邇摩高校の教育魅力化 ▶ p.6-7
(総合的な探究の時間・道の駅「ごいせ仁摩」との連携・邇摩高校魅力化コンソーシアムの取組)

〈地域資源を活かした教育の推進〉

- ふるさと教育 ▶ p.8
- 石見銀山学習(世界遺産学習) ▶ p.9
- おおだ共育共創ラボ(ダイコウラボ) ▶ p.10

〈育てたい子ども像を共有する体制づくり〉

- コミュニティ・スクールの設立推進 ▶ p.11

〈幼・小・中・高の連携推進〉(たての連携)

- 中・高連携合同事業「ふるさと夢未来講演会」 ▶ p.12
- 幼小連携 ▶ p.12
- 教職員合同研修会 ▶ p.13

〈情報発信〉

- おおだ教育月間 ▶ p.14

〈次年度への展望〉

- 教育魅力化の取組
- おおだ未来☆夢ランド(おおだ教育魅力化推進会議) . . . ▶ p.15

〈教育の魅力化 用語解説〉 ▶ p.16

【表紙によせて】

今年度、いろいろな風船が大田市のあちらこちらで上がりました。

大田市の「教育の魅力化」でめざすもの

ふるさとを愛し、持続可能なおおだを創る、心豊かな人づくり

「教育の魅力化」の目的

大田市が目指す人材の育成に向け、地域総ぐるみで0歳から18歳までの育ちに関わり、切れ目のない教育活動を推進するために、学校・家庭・地域・行政の連携を図りながら、魅力的な教育環境の整備及び支援の充実を図ります。

「教育の魅力化」を進めるにあたって

◆ 大田市は . . .

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」を有する本市は、ユネスコに基づき、「一人一人の人権が尊重される、心豊かな共生社会」の実現を目指しています。平成28年には、「ふるさとを誇り、大田と世界の未来を拓く」を基本理念とした「大田市教育ビジョン基本構想」を策定し、「生き抜く力を育てる」「あるものを活かす」「地域を支え、創る」を基本方針として取組を進めています。

学校や地域では、先人から受け継いだ、歴史・自然・文化などの大田市の宝を豊かな教育資源として活かしたふるさと教育が推進され、子どもたちのふるさとへの愛着や誇りにつながる貴重な学びとなっています。

◆ 大田市が抱える課題は . . .

一方、大田市は進行する人口減少による児童生徒の減少、少子高齢化、市内県立高等学校への進学率の低下などの状況から、「このままでは持続可能な大田市が創れない」という深刻な地域課題に直面しています。未来に向かって、持続可能なおおだを創っていくためには、子どもも大人もふるさとに誇りや関心をもち、関わっていかうとする気持ちを育てていくことが大切です。

子どもたちにとって、魅力的な大人との出会いや関わり、学校での学びを地域で実際に試しながら自分の答えを見つけ出していく経験は、これからの時代に必要な主体性や協働性を高め、生き抜く力を育みます。また、大人も子どもたちとの関わりや学びの協働を通して、ふるさとへの思いを新たに、地域の様々な物事を次世代へと継承していく意欲を高めたり、主体的に地域を支え、創っていかうとする態度を育んだりすることにつながります。そして、これらの取組が、子どもも大人も豊かな学びや健やかな成長となり、地域の活力につながっていくことを期待しています。

◆ いざ、「教育魅力化」推進へ . . .

そこで、大田市では、0歳から18歳までの子どもの育ちや学びの充実を図ることはもとより、学校・家庭・地域・行政が手を携えて、地域総がかりで学びを支え、子どもたちが地域の大人との関わりの中で育つ、教育環境の整備及び支援の充実を図る「おおだの教育魅力化」を推進していきます。そして、「かかわる」「ふみだす」「はぐくむ」をキーワードに、未来志向の教育の視点を入れて、「幼児教育・学校教育の魅力化」・「地域の魅力化」に取り組めます。

かかわる

一人一人が自分のこととして考え、多くの人と関わり、対話し、だれもが主体性をもって取り組もう。

ふみだす

新しい発想やチャレンジ精神をもって、だれもが一步踏み出し自分や地域・世界の未来を創造しよう。

はぐくむ

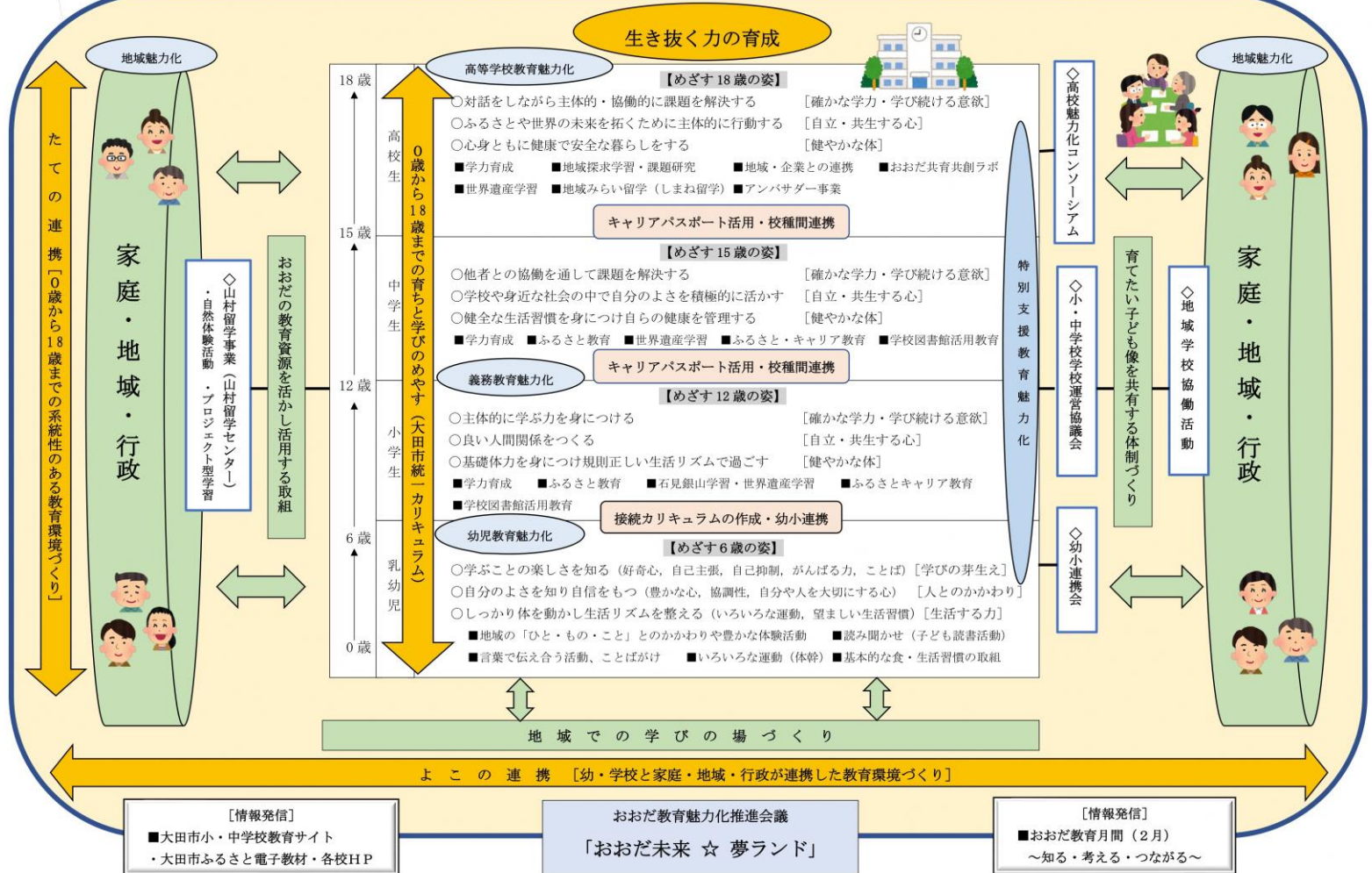
ふるさとを愛する気持ちを力に、未来に向かって、みんなで共に歩む人づくりに取り組もう。

教育魅力化グランドデザイン

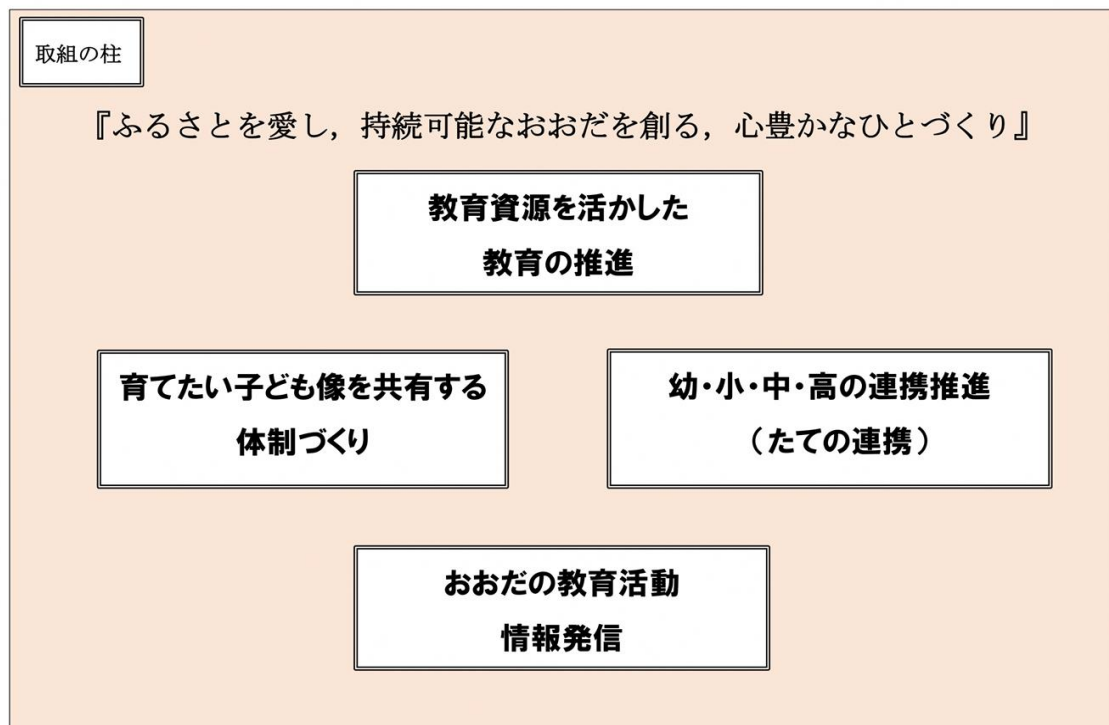
『子どもたちの笑顔があふれ、
みんなが夢を抱けるまち“おおだ”』

ふるさとを愛し、持続可能なおおだを創る、心豊かな人づくり

【大田市教育魅力化グランドデザイン】



取組の4つの柱(1)



取組の4つの柱（2）

令和3年度の大田市の教育魅力化の核となる取組は、次の4つです。

1. 教育資源を活かした教育の推進

これは、地域の魅力的な教育資源「ひと」「もの」「こと」を活かした教育活動を推進することです。

このことにより、ふるさとに対する愛着や誇りを高めるとともに、本物に出合う体験を通して、学びに向かう意欲の高揚を図ります。そして、地域の人とのつながりを深め、ふるさとへの貢献意欲を育みます。

- ◆ふるさと教育、石見銀山学習（世界遺産学習）の学びの系統性
- ◆教職員研修の実施（大田市の教育資源の周知）
- ◆高校生と地域の大人の出会いの場づくり（おおだ共育共創ラボ）

2. 育てたい子ども像を共有する体制づくり

0歳～18歳までの子どもに関わる地域の大人が、同じねらいに向かって子どもたちに関わる体制づくりをすることです。学校・家庭・地域・行政が手を携えて、地域総がかりで子どもたちの教育を支えます。

- ◆学校運営協議会の設置
- ◆大田市内県立高等学校支援連携協議会の運営
- ◆大田高校、邇摩高校魅力化コンソーシアムとの連携

3. 幼・小・中・高の連携推進（たての連携）

子どもたちは、小学校に入学する前から地域と関わり多くの豊かな学びを得ています。そこで、幼児教育施設・小学校・中学校・高校において、子どもたちが発達段階ごとに学んだことを共有し、つながりや連続性を大切にしながら子どもたちと関わることを目指しています。

0～18歳の子どもの育ちを系統的に整理した大田市統一カリキュラム「子どもの育ちと学びのめやす」を活用しながら、幼・小・中・高のたての連携づくりを推進していきます。

- ◆幼小連携
- ◆小・中・高連携（ふるさと夢未来講演会）
- ◆小・中・高教職員合同研修

4. おおだの教育活動の情報発信

大田市の魅力的な教育活動について、全市に情報発信することを目的に、2月をおおだ教育月間としました。おおだ教育月間のテーマは、「知る・考える・つながる」です。この期間には、おおだの教育活動の映像配信や「おおだ教育未来講演会」（おおだ教育フェスタ）を開催しました。

また、大田市内全小・中学校の特色あるふるさと教育の取組を紹介する広報誌を作成し、全戸配布しました。

- ◆おおだ教育月間（2月）
- ◆教育フェスタの開催（おおだの教育未来講演会）
- ◆大田市小・中学校教育サイト（大田市ふるさと電子教材）
- ◆大田市内各校HP

▼ふるさと教育「いもの苗植え」



▼幼小連携合同管理職会



▼石見銀山学習「波根町長福寺見学」



▼小・中・高校教職員合同研修会
（石見銀山学習・世界遺産学習）



【事業の目的】

身近な地域のひと・もの・ことを学びの素材に、体験活動や実際に地域の方と協働して課題解決型学習を行います。地域の魅力や地域・社会の課題の探究を通して、自分が地域の一員として「やりたいこと」「できること」を探します。

【事業概要】

1年生：地域体験活動

日程：7月8日～7月26日(全12時間)

内容：本活動は、全12プログラムの中から生徒自身が体験したい活動を選び、地域の方から大田市の魅力や課題を学ぶ機会となっています。市外や県外の生徒だけでなく、大田市内の生徒も初めて訪れる場所や体験する活動が多く、生徒にとっては貴重な時間になりました。また、体験後は自分たちが学んだこと、考えたことを振り返り、その内容をポスターにまとめ、学園祭期間中に掲示を行いました。

(活動例)「アナゴの大田市を知ろう」

内容：アナゴをさばく体験やアナゴを使った商品開発のワークショップを通じて、大田市の漁業の歴史や、流通・販売の仕組みを学びました。

協力：大田商工会議所・有限会社岡富商店

(活動例)「大田市駅前の活性化について考えよう」

内容：大田市駅前を魅力的にするためにはどのような町づくりが必要か、駅前通りを実際に歩いた上で付箋、模造紙等を用いながらアイデア出しのグループワークを行いました。

協力：大田市中心市街地活性化協議会プロジェクトチーム

(活動例)「観光スポット“石見銀山”を知る」

内容：観光スポットとしての石見銀山の魅力をより多くの人に伝えるにはどうすればよいか実際に大森の並みを歩き、観光業に携わる人の話を伺いながら考えました。

協力：一般社団法人大田市観光協会

▼「アナゴの大田市を知ろう」の様子



▼「観光スポット“石見銀山”を知る」の様子



2年生普通科：地域課題解決型学習「ダイコウプロジェクト」

日程：2021年6月～2022年2月(全35時間)

内容：本活動ではグループに分かれ、地域の課題解決に1年かけて挑戦しました。生徒が取り組むのは地域の「歴史・文化」「経済・産業」「観光」「異文化交流」「自然・環境」「健康・スポーツ」「子育て・教育」「医療・福祉」の8つの分野です。各グループごとに解決する地域課題を自ら設定し、地域に出かけ情報を集めるための「地域調査」、実際に課題解決策を実行する「プロジェクトの実行」、実行したプロジェクトの結果を振り返る「考察・検証」を行いながら、地域課題解決型学習に取り組みました。各グループがこの1年間取り組んだことを発表する「成果発表会」では、2年生の他の班のメンバーや、来年度本活動に取り組む1年生に向けて、各生徒が1人ずつ発表を行いました。また、今年度は、伴走者制度を導入し、地域の方19名に各グループに入ってもらい、1年間プロジェクトの伴走支援を行っていただきました。

(プロジェクト例)【大田市のバリアフリーマップを作る】

分野：地域の「医療・福祉」

地域課題：大田市駅内のバリアフリー設備について知っている人が少ない。

活動内容：市民も多く利用する大田市駅のバリアフリーマップを作成するために大田市駅の現地調査や聞き取り調査等を行いました。その後、作成したバリアフリーマップを大田市役所の地域福祉課の職員に対してプレゼンテーションを行い、作成したバリアフリーマップの設置の提案やバリアフリー設備の見直しについての話し合いを行いました。今後の課題としては、今回のようにバリアフリーの情報を冊子にまとめるだけではなく、webに集約するなどして、駅に来る前から市民に知ってもらえるような手段を考え、実行することを挙げていました。

(プロジェクト例)【大田の魅力伝えよう】

分野：地域の「経済・産業」

地域課題：大田市の人口減少が続くことで、地元企業の売上げが減少し、閉店するお店が増加する悪循環が起きている。

活動内容：大田市にある魅力を上手くPRできれば、大田に来る人が増え、上記の悪循環を止められると考え、大田市の魅力が伝わるようなツアーの考案を行いました。ツアー案を考えるにあたっては、まず、株式会社石見観光大田営業所に訪問し、大田のツアーの現状や観光スポットについての質問を行いました。その後、班のメンバー一人一人が高校生ならではの視点でツアーを考案し、大田市役所の観光振興課および一般社団法人観光協会の職員に対してプレゼンテーションを行いました。活動を終えての考察としては、ツアー案の提案だけでは地域課題の解決にはつながりにくく、直接市外の人にPRする場を設けることが今後の課題であると述べていました。

▼ 地域の伴走者に中間報告会を行う様子



▼ 地域調査で琴ヶ浜を訪れる様子



【担当者から一言】 田中魁人(大田市教育魅力化コーディネーター 大田高校担当)

本校のグランドデザイン(学校教育の全体像)では、目指す学校像として「地域とともに未来を切り開く生徒を育てる学校」を掲げています。この目指す学校像を実現するためには、地域と協働して行う総合的な探究の時間は重要な取り組みであり、持続可能な地域と高校の体制づくりを行えるよう、私も引き続きコーディネートを行いたいと思います。また、生徒の振り返りでは、そのような地域での活動を通して、「今までなんとなくでしか答えられなかった大田の魅力がはっきり人に伝えられるようになった」、「将来、大田に戻ってきたいという気持ちが強くなった」といった記述がありました。今後も地域での学びが、生徒一人一人の未来を切り開く一助になれるよう、校内の先生方と協力しながら、伴走・支援を行っていききたいと思います。

【事業の目的】

県外生徒の受け入れを通じて、高校生活での新たな出会いを生み、多様な価値観に触れることのできる環境をつくるのが本事業の目的です。

【事業概要】

日程：6月5日(土)、6月6日(日)、7月4日(日)、7月31日(土)

内容：県外生徒の募集を行うため、オンラインで行われた地域みらい留学合同説明会に参加しました。説明会では全国約70の高校が参加し、本校は「テーマ別説明会」と「学校別説明会」にて、全国の中学生・保護者に向けて、学校説明を行いました。また、説明会では寮生を中心に自身の体験を踏まえ、本校や大田市の魅力について語ってくれました。

テーマ別説明会：テーマ別説明会では、各高校が6つのテーマにわけられ、そのテーマに沿った学校説明を行います。本校は「地域の特徴とつながり」、「特徴的な学び、探究的な学び」というテーマで学校説明を行いました。まず、「地域の特徴とつながり」というテーマでは、1,2年生が取り組む総合的な探究の時間を中心に、海、山、世界遺産と地域資源が豊富な大田市だからこそ出来る学びについて説明を行いました。次に「特徴的な学び、探究的な学び」というテーマでは理数科で行う理数系に特化した専門的な学び(研修や授業)について説明を行いました。

学校別説明会：学校別説明会は、各高校単独の学校説明を行う場です。本校は15分間、高校や寮の特徴について説明を行い、その後30分程度質疑応答を行いました。オンラインでありながらもなるべく高校の様子を知っていただけるよう写真や動画を多く用いながら説明を行いました。また、寮での生活や休日の過ごし方については、寮生が自らの体験談を交えながら紹介しました。

成果：本説明会では延べ“224名”の全国の中学生・保護者の方に本校の学校説明を行うことができました。

【担当者から一言】 田中魁人(大田市教育魅力化コーディネーター大田高校担当)

2021年度は地域みらい留学での説明会等を通して7名の県外生が入学しました。総合的な探究の時間のグループワークでは、市内出身の生徒が県外出身の生徒に対して大田の地域のことを説明する場面や、県外出身の生徒が県外から見た大田市の印象を話すなど、双方にとって刺激となっている場面が見受けられました。県外の方にも安心して本校に入学していただけるよう引き続き情報発信を行いたいと思います。

▼ オンラインで学校説明をする生徒の様子



【事業の目的】

本校では、今年度より大田高校魅力化コンソーシアムが設立されました。本校のコンソーシアムは「地域とともに未来を切り拓く生徒を育てる」という目指す学校像の実現と、地域人材育成のため、地域と協働したカリキュラム開発や学校運営を行い、大田高校の教育活動をよりよいものにしていくことを目的としています。また、役員会は下記の構成団体の代表者によって構成されます。

大田市(政策企画部、教育委員会)
大田商工会議所、大田市中央公民館、島根県立大学、大田市中学校長会、大田高校評議員、大田高校瓶陵会、大田高校PTA、島根県立大田高校
※規約での記載順

【事業概要】

大田高校魅力化コンソーシアム第1回役員会

日程：6月28日(月)

内容：(1)規約の確認、(2)役員選任、(3)学校概要説明、(4)令和3年度事業計画及び予算について、審議が行われました。また、役員会でいただいた意見をもとに下記の「市議会連携授業」を実施いたしました。

市議会連携授業

教科：1年生 公民「現代社会」

日程：11月上旬(全5時間)

目的：住民としての意見を政治に反映させる手段を知り、持続可能都市大田市をつくるためのプランを市議会へ伝えることを通じて地方自治に関わる一員としての自覚を深め、地方自治に対する関心を深めることを目的としています。

内容：グループごとに、持続可能都市大田市を目指すための模擬請願の作成を行いました。模擬請願を作る際は、SDGsの観点を参考にし、自分たちの請願書がSDGsの17の目標のうちどの目標に沿った提案なのか考えながら活動しました。最終発表では大田市の市議会議員の方に向けてプレゼンテーションを行い、いただいたご意見を参考にプランの改善を行いました。

大田高校魅力化コンソーシアム第2回役員会

日程：2月9日(水)

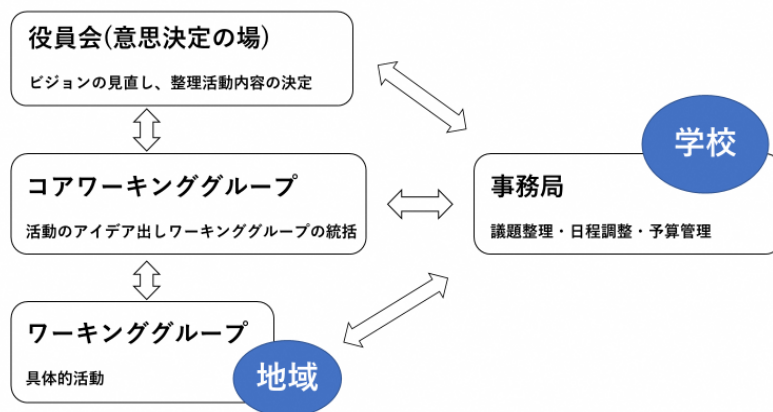
内容：(1)令和3年度事業報告(中間報告)、(2)令和3年度会計報告(中間報告)、(3)学校運営協議会について、審議が行われました。

コアワーキンググループ会議

日程：5月31日、6月8日、7月8日、8月26日(全4回)

内容：2年生普通科総合的な探究の時間「ダイコウプロジェクト」の授業づくりにあたり、コアワーキンググループの4名の方々から4回の会議を通じてご意見をいただきました。具体的には、前頁に記載している伴走者制度を導入するにあたっての、伴走者候補の提案及び依頼、伴走者の授業参加に向けての支援について、探究担当教員、コーディネーターを含め協議しました。

大田高校魅力化コンソーシアム組織図



▼市議会連携授業の様子



【事業の目的】めざす生徒像

- (1) 自らの課題と目標を設定し、自己実現に向けて主体的に取り組む生徒。
...〈創造〉
- (2) 地域に愛着と誇りを持ち、将来、地域に貢献しようという志を持つ生徒。
...〈勤労〉
- (3) 自他ともに尊重し、思いやりをもってより良い人間関係を築こうとする生徒。
...〈仁心〉

【今年度のトピック】

・「石見銀山保全活動」

1・2年生が石見銀山遺跡に出かけて、保全活動を行い、現状を認識したうえで、探究学習に取り組んだ。

・「学習成果発表会」

各学年で取り組まれた探究学習の成果の発表会を行い、3年間のつながりを共通理解できた。

・「しまね探究フェスタ」

県内すべての学校が参加して、オンラインで探究学習の成果発表会を行った。

・「総合学科発表会」

県内の総合学科4校がオンラインで探究学習の成果発表を行った。他校の発表を聞くことで生徒は大いに刺激を受けた。

【活動の様子】



【事業概要】

＜1年生「産業社会と人間」＞

【目標】

- ・出会いと関わり合いを通して視野を広げ、自分を見つめ、多様な価値観を育成する。
- ・将来の生き方や進路を見据え、主体的な系列・科目選択を実現させる。

「石見銀山保全活動」

〈事業の目的〉

世界遺産「石見銀山とその文化的景観」から最も近い高校であり、その資源を活かした実践活動を行い、地域から見た瀬摩高校の有用感を高め、魅力化推進を図る。

〈事業の流れ〉

事前研修⇒保全活動の実施（10月）⇒学習成果発表会

「その他の事業」

- ・職業講話 ・ボランティア講話 ・おもてなし講話 ・出雲養護学校瀬摩分教室との交流
- ・サンドミュージアム花時計の植替え

＜2年生「進路設計」＞

【目標】

- ・地域で活躍できる人材を育成することを目指す。
- ① 地域課題を見つける
- ② 地域課題を深く知っていく活動を通して、自分から地域の人と関わっていく力をつける。
(受け身から主体的に動けるように)

「石見銀山保全活動」

〈事業の目的〉

世界遺産「石見銀山とその文化的景観」から最も近い高校であり、その資源を活かした実践活動を行い、地域から見た瀬摩高校の有用感を高め、魅力化推進を図る。

〈事業の流れ〉

保全活動の実施（4月）⇒事後研修⇒グループ別に探究学習⇒学年発表会

「テーマ別探究学習」

〈事業の目的〉

大田市が抱える地域課題を知り、瀬摩高生に何ができるか、その解決策を考える。

- ◎「石見銀山学習」「ごいせ仁摩」「地域活性化」のテーマから1つを選択してグループで探究学習を行う。

〈事業の流れ〉

市長講話⇒グループ別に探究学習⇒学年発表会⇒学習成果発表会⇒しまね探究フェスタ

「その他の事業」

- ・PBL型インターンシップ ※準備は行ったものの、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため中止

＜3年生「銀の哲学」系列別探究学習＞

【目標】

- ・主体的な学習の姿勢を貫き、系列学習の総まとめとして社会への理解や地域への愛着を深める。
- ・地域との関わりから課題を見つけ、協働的な取り組みを通じてより良い解決方法を具現化する。
- ・一人一人がリーダーシップの向上に努めながら思いやりをもって仲間とより良い人間関係を築くことで、人間性豊かな職業人・社会人を育成する。

「系列別探究学習」〈探究の事例〉

- ・「糖尿病を予防しよう！！」（生活系列食物モデル）
- ・「続・アナゴPR」（ビジネス系列）
- ・「視覚障がい者の方に案内できる点字マップづくりに挑戦」（福祉系列）
- ・「体型の悩みをカバーするドレス作り」（生活系列被服モデル）
- ・「大森町の魅力と価値」（文化系列）
- ・「仁摩町の特産品の復活と新商品開発を目指して」（農業系列）
- ・「ゲームを使って大田市をアピール」（ビジネス系列）
- ・「大田市の伝統食のオリジナル化を目指して」（農業系列）
- ・「スマホ・ゲーム機との付き合い方」（生活系列保育モデル）

〈事業の流れ〉

系列別探究学習⇒系列別発表会⇒学習成果発表会⇒総合学科発表会

「瀬摩高フェアの開催」

【目標】

- ・学習を通して社会への理解や地域への愛着を深めさせ、地域社会に貢献できる人材を育成する。
- ◎3年生を中心に模擬会社「ファイブスターカンパニー」を設立し、企画・運営を行った。

〈事業の流れ〉

イベント開催のための基礎研修⇒社員集会⇒おもてなし研修⇒フェア開催

※新型コロナウイルス感染症拡大予防対策として入場制限を行い開催した。

【担当者から一言】森本 学（大田市教育魅力化コーディネーター 瀬摩高校担当）

教育魅力化には立ち上げ段階から関わってほしいものの、今回改めて携わったことで現場での苦労を実感しました。地域と学校を繋ぐことをミッションに取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの制約もあり、十分な役割が果たせませんでした。

【来年度へ向けて】

- ・幼・小・中・高の連携を図る。
- ・地域の方と関わる機会を増やす。

【事業の目的】

道の駅「ごいせ仁摩」の開業に向けて、高校と道の駅によるまちづくりという観点のもと、地域との共同活動、地域に開いた学校づくりに努める。

【今年度のトピック】

- ・「定礎石文字の揮毫」
- ・「オープニングイベントへの協力」
- ・「特産品開発」
- ・「加工品販売」

【今年度の成果】

- ・定礎石の文字を揮毫することができた。
- ・「マッスルチップス」特産品開発に関わることができた。

【活動の様子】

▼定礎石の揮毫



▼特産品開発



【事業概要】

＜定礎石文字の揮毫＞

建設が進む道の駅「ごいせ仁摩」の担当者から、定礎石に刻む「定礎」の文字を、邇摩高生に書いてもらえないかという打診がありました。書道部の顧問の先生を通じて生徒にあってもらったところ、2年生の生徒が、快く引き受けてくれました。最初は自分で良いのかとも思ったそうですが、周囲の人に自分が書道をやっていることを知ってもらいたかったので、引き受けてくれたそうです。記念碑と違って、定礎石の字は誰が書いたかは明らかにされませんが、友人や親せきの人たちには、自分が書いたことを話したいともっていました。

＜オープニングイベントへの協力＞

「ごいせ仁摩」の担当者から、オープニングイベントへの参加要請がありました。石見神楽部と吹奏楽部に打診し、参加の意向を確認しましたが、吹奏楽部は部員数が少ないことから大田西中吹奏楽部とのコラボレーションで出演することになりました。直前になり、新型コロナウイルス感染症蔓延防止対策でオープニングイベントは中止となりましたが、今後、行われるイベントには積極的に参加していきたいと考えています。

＜特産品開発＞

ビジネス系列3年生のグループが、「ごいせ仁摩」の開業に向けて、アナゴを使った新商品の開発を題材として、探究学習を行いました。様々な変遷を経て、市内の蒲鉾屋さんからの提案で、魚のすり身を乾燥させた原料を油で揚げた「チップス」の開発に参加し、「蒲鉾さんのマッスルチップス」というネーミングのアイデアを出しました。「マッスルチップス」は「ごいせ仁摩」の開業とともに販売されています。

＜加工品販売＞

農業系列では、ジャムや味噌などの農産加工品の製造を手掛けており、これまで、邇摩高フェアや地域のイベントで販売し、地域の方にも親しまれてきました。「ごいせ仁摩」で常時販売していただくことで、多くの方に知っていただきたいと考え、販売に向けての協議を行いました。手続きの関係で、開業時からの販売は出来ていませんが、早期に販売していただく予定です。

【担当者から一言】 森本 学（大田市教育魅力化コーディネーター 邇摩高校担当）

「ごいせ仁摩」との連携は、今年度の魅力化事業の目玉であったにも拘わらず、なかなか事前の協議ができず、また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、十分な連携を図ることができませんでした。今後は、「ごいせ仁摩」のスタッフと細かに連絡を取り合いながら、連携を進めていきたいと思ひます。

【来年度へ向けて】

- ・地元産の塩を使った農産加工品づくりの研究を進める。
- ・新たな特産品開発に向けた探究学習に取り組む。
- ・集客イベントへ積極的に参加し、来場者との交流を図る。

【事業の目的】

邇摩高校を核に地域の多様な関係者と生徒、保護者、教職員、同窓会等の邇摩高校関係者が協働体制を構築し、地域を支える人財育成のため、学校教育を充実させることを目的とする。

【今年度のトピック】

- ・コンソーシアムの設立
- ・役員会の開催

【今年度の成果】

魅力化事業の推進母体として「邇摩高校魅力化コンソーシアム」を設立し、企画・運営することができた。

【担当者から一言】 森本 学（邇摩高校魅力化コンソーシアム運営マネージャー）

魅力化コーディネータに併せて、コンソーシアム運営マネージャーと肩書もいただき、コンソーシアムの役員の方々に、邇摩高校が行う魅力化事業をご理解いただくよう進めてきました。ワーキンググループを活用できなかったことが課題と言えます。

【来年度へ向けて】

- ・学校運営協議会とコンソーシアムの役割分担の明確化を図る。
- ・ワーキンググループの活用を図る。

【事業概要】

＜役員会の開催＞

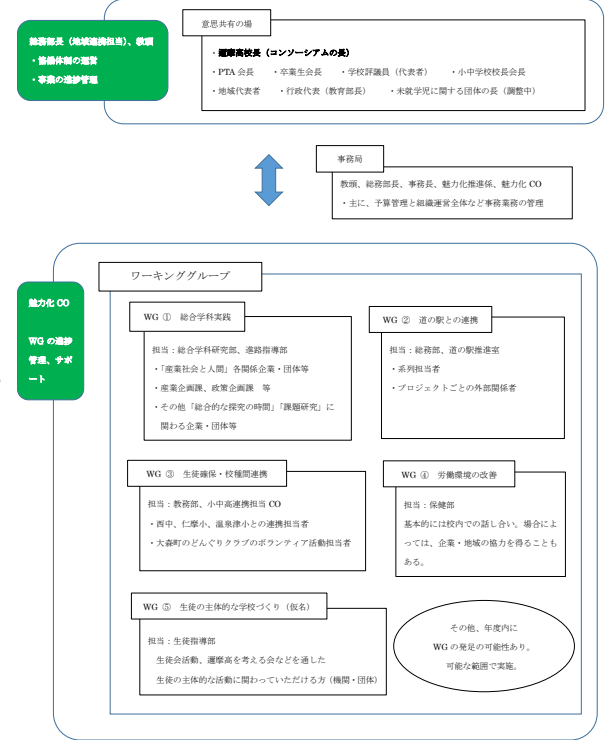
【第1回役員会】

日時：令和3年6月7日（月）
内容：①コンソーシアム規約について
②役員選任について
③学校概要説明
④グランドデザインについて
⑤令和3年度事業計画について
⑥令和3年度予算について

【第2回役員会】

日時：令和4年1月14日（金）
内容：①令和3年度事業中間報告について
②令和3年度決算見込みについて
③学校運営協議会設置について

邇摩高校魅力化コンソーシアム組織図



【事業目的】

島根県では、ふるさと教育推進事業を実施しており、ふるさと教育の基本方針を次のように示している。

島根に残る美しく豊かな自然、各地域に脈々と受け継がれてきた固有の歴史や文化、地域の人材などについての認識を深め、ふるさとへの愛着や誇りをさらに高めていくとともに、地域を支える次世代の育成をすすめていく必要がある。

そこで、地域においては、住民がふるさとの現状や歴史などに改めて向き合うことで、その魅力や普遍的な価値に気づき、理解を深めていく。

学校においては、地域の人々とともに自然体験、社会体験等を通じて、子供たちに地域社会の一員としての自覚を持たせ、社会性を育む。また、地域課題に正対することで、ふるさとへの貢献意欲を育む。また、ふるさと教育を着実に推進していくため、引き続き学校・地域が相互理解の上に緊密に連携し、それぞれの役割を果たしながら取り組む。

【事業概要】

今年度も大田市の小・中学校では、ふるさと教育を行いました。子どもたちは、大田市ならではの自然・歴史・行事等について理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りを育んでいます。また、多くの地域の方が子どもたちの学習に関わってください、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、特色ある学習が行われました。

＜ふるさと教育広報誌作成・配布＞

市内小・中学校で行われているふるさと教育について、市民の方に広く知っていただくために、2月の「おおだ教育月間」(※p.14参照)に併せて広報誌を作成し、全戸配布しました。身近な地域はもちろん、市内の魅力ある地域資源「ひと・もの・こと」について知っていただく機会となりました。



＜大田市のふるさと教育の目標の見直し＞

島根県からふるさと教育の今後の方向性が示されたことを受けて、大田市のふるさと教育の目標の見直しを行いました。

県学力調査の結果からも、「ふるさとへの愛着や誇り、関心がある児童・生徒の割合」は8割を超えて高いものの、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある児童・生徒の割合」は5割を下回る状況であることがわかりました。

これまでの大田市のふるさと教育の目標「地域について理解を深め、ふるさとへの誇りとふるさとを愛する心を育む」に、地域への貢献意欲や実行力へと高められるようにと「地域に貢献しようとする態度を育てる」ことを加えました。

☆児童・生徒

- 地域の「ひと・もの・こと」との関わりを通して、ふるさとへの愛着や誇りに思う心を育てる。
- ふるさとへの理解を深め、地域に貢献しようとする態度を育てる。

大田市の「ひと・もの・こと」を知り、地域資源を活かした体験活動を通してふるさとへの愛着や誇りを育みます。また、地域の課題を知り、地域の未来を考えることを通して、自分がどのように地域と関わり、貢献していくかを考え、行動しようとする態度を育てます。

☆地域の大人

- 地域に関連する様々な物事を継続して学び、次世代への継承意欲を高める。
- 主体的に地域を支え、創っていかうとする態度を育む。

子どもの学びに関わることを通して、地域のよさを伝えながらふるさとへの理解促進につなげます。さらには、社会教育での学びを通して、地域の未来を考え、主体的に地域を支え、担い、創っていかうとする態度を育みます。

＜ふるさと教育担当者会の実施＞

- 日 時 2月25日(金) 15:30~16:40
- 場 所 市民センター 集会室
- 参加者 市内小・中学校のふるさと教育担当者
- 内 容 大田市のふるさと教育の方針(目標)について説明
全体計画の見直しについて
中学校区ごとにグループ協議(自己紹介・今年度のふるさと教育を振り返って、児童・生徒の実態を出し合う)
全体共有

【担当者から一言】(石橋圭子 派遣社会教育主事)

- ・参加者の中から、「この担当者会があってよかった。校内のふるさと教育の内容も見直していきたい」と前向きにとらえていただき、今後のふるさと教育の充実に繋がる機会となりました。
- ・来年度もふるさと教育担当者会を適宜開催しながら、1年間かけて全体計画の見直しを行っていききたいと思います。

【事業目的】

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」を有する大田市の特色あるふるさと教育の1つである石見銀山学習は、ESDを軸とした世界遺産学習です。

大田市内のすべての小・中・高等学校で、石見銀山学習（世界遺産学習）が行われています。石見銀山学習の学びを系統的に発展させていくことは、地域資源を活かした教育の推進につながります。

【石見銀山学習のねらい】

地域の遺産や日本遺産、世界遺産に親しみ、文化や歴史、人々の営みについての理解を深める学習を通して、自尊感情を育むとともに、人、社会、自然環境とのつながりから、自ら学び、考え、行動する力を育成する。

【事業概要】

- (1) 石見銀山課との連携会の実施
 - ・石見銀山学習のとらえや学びの系統性の検討
 - ・石見銀山学習のねらいや育てたい子どもの姿、目指す資質・能力検討
 - ・地域との関わりから考える石見銀山学習案作成（小学校）
 - ・グローバルな視点から考える石見銀山学習案作成（中学校）
- (2) 石見銀山資料館との連携
 - ・石見銀山学習の学びのイメージ検討
 - ・熊谷家住宅を活用しての石見銀山学習プログラム作成
 - ・中学校社会科歴史分野教科書記述と関連付けた、石見銀山の歴史・文化・人々の生活などの電子教材づくり
- (3) 石見銀山協働会議との連携
- (4) 小・中・高等学校での石見銀山学習（世界遺産学習）への支援

▼大久保間歩坑内見学



▼鞆ヶ浦街道を歩く



▼世界遺産学習「学びのバリアフリー」
(熊谷家住宅内での視覚障がいに関する研修)



【実践例】 邇摩高校福祉系列「学びのバリアフリー」学習（世界遺産学習）

【概要】

世界遺産銀山遺跡地内の重要文化財「熊谷家住宅」を活用して、視覚障がい者向けのワークショップやコンテンツ作成を行う事業です。熊谷家住宅内の展示内容を「視覚障がい者へどう伝えるか」を学習課題に、視覚障がい者への理解を深め、バリアフリーのためにできる成果物づくりに取り組みました。成果物の「音声案内と触地図」は、今後、熊谷家住宅で実際に活用していただきます。

【連携した関係機関】

- ・NPO法人石見銀山資料館（熊谷家住宅）
- ・筑波大学 宮坂慎司先生 ・明治学院大学 半田こづえ先生（視覚障がい当事者）
- ・島根県西部視聴覚障害者情報センター ・大田市社会福祉協議会

【学習内容】

- ① 石見銀山資料館長から石見銀山遺跡と「学びのバリアフリー」の解説を聞く。
- ② 大森町と熊谷家住宅で視覚障がいの疑似体験をし、視覚障がいについて学ぶ。
- ③ 視覚障がい者向けの「熊谷家住宅音声案内」と「触地図」を作成する。
- ④ 宮坂先生、半田先生と交流し、バリアフリーについて学びを深める。

【石見銀山学習（世界遺産学習）学びのイメージ】

【担当者から一言】 原田奈保子

（教育魅力化主任コーディネーター）

- ・「石見銀山学習」について、とらえ方やねらい、学びの系統性など、石見銀山課や石見銀山資料館長さんと連携してまとめました。
- ・熊谷家住宅を活用した学習プログラム地域との関わりから考える石見銀山学習案（小学校）、グローバルな視点から考える石見銀山学習案（中学校）等を作成しました。これらの資料が今後の石見銀山学習の充実につながることを願っています。
- ・来年度は、中学校区の石見銀山学習内容一覧表を作成し、小学校での学びを中学校、高等学校の学びにつなげていく予定です。
- ・単に石見銀山に行くことだけを石見銀山学習（世界遺産学習）の目的にするのではなく、大田市の進める石見銀山学習（世界遺産学習）では、ESDに基づいて地域社会や世界の課題に目を向け、行動できる子どもたちの育成へとつなげていきたいと考えます。



【事業の目的】

高校生と地域の大人が共に育つ地域、教育コミュニティをつくる。

【事業概要】

ダイコウラボとは、多様な出会いの機会の創出と、高校生と地域の大人が一緒になって、高校生が考える身の回りの課題解決や「こんなことやってみよう」という思いを実現する場です。

<ダイコウラボで大切にしている3つの機会>

「出会う」

ダイコウラボでは、大切にしている機会の1つとして多様な出会いの機会の創出を掲げています。今年度は、延べ120名の高校生と延べ100名の地域の方（市内企業の方や大学生、市役所職員等）に参加していただきました。また、ダイコウラボの実施場所としては、校内に留まらず、「国民宿舎さんべ荘」や「大森町並み交流センター」、温泉津にある「福光石石切り場」など、地域に出かけての活動も行いました。コロナ禍においてはリモートでの企画を実施し、年間を通じて、学校の中だけでは出会えないたくさんの人たちに出会い、多様な価値観、生き方に触れる機会となりました。

「話す」

ダイコウラボに参加した高校生は、ラボ内で出会う他の高校生や地域の大人と様々なテーマで話をしています。今年度は、大森の未来について大森住民と話す場や、自分の将来について市役所の若手職員と話す機会等がありました。また、高校生が自らの興味関心に合わせてプロジェクトを考案・実行する「マイプロジェクト」の企画では、地域の方に自らアポイントを取り、プロジェクトの祖団をしに行く場面もありました。参加者それぞれがどうしたら自分の思いや考えを伝えられるか考えながら活動しています。

「踏み出す」

ダイコウラボをきっかけに、複数の生徒が身の回りの課題や関心をテーマにプロジェクトを立ち上げ実行する「マイプロジェクト活動」に取り組みました。また、一部の生徒は、県内の探究学習（総合的な学習の時間・専門学科の課題研究・マイプロジェクト等）の成果発表としてオンラインで開かれた「しまね探究フェスタ2021」（主催：島根県教育委員会）に参加し、自身のプロジェクトや活動を通して学んだことについて発表を行いました。

活動例：石見銀山・大森の魅力と課題を届けるプロジェクト

内容：国立大学法人筑波大学の世界遺産学に所属する大学生に向けて、オンラインで「石見銀山・大森」を紹介する授業を行いました。紹介する内容を考えるにあたり、文献をまとめるだけでなく、現地に住んでいる人に、石見銀山・大森に対するインタビュー調査を行い、魅力や課題、現状についてまとめました。オンライン授業では総勢10数名の大学生および教授の方に生徒の発表を聞いていただき、世界遺産である石見銀山・大森について意見交換を行いました。

活動例：地元企業と協働した大田市のお土産の商品開発

内容：株式会社森田製菓と協働しながら、大田市の食材を使ったグミの商品開発を行いました。生徒は社員の方と半年以上、打ち合わせを重ね、商品のコンセプト決めや試作を行いました。また、実際に使用する大田市のブルーベリー農園を訪れ、ブルーベリーに対する思いを農家の方から直接伺うなど、よりよい商品づくりに向けて試行錯誤を繰り返しました。

【ラボの実施回数】

4月：2回	5月：1回	6月：4回	7月：1回	8月：1回	
9月：1回	10月：2回	11月：2回	12月：2回	3月：2回（予定）	合計18回実施 ※マイプロジェクトは除く

【ラボに参加した生徒の感想】

- ・自分のやりたいことや思いをいろんな人に聞いてもらえるだけでなく、経験豊富な方のお話も聞けて、とてもためになる時間でした。
- ・大学生の先輩や地域の大人の人と話す中で進路選択のきっかけや大学生活等、自分が気になっていたことが聞けてよい機会になりました。
- ・初めは人と話すのが不安だったけれど、自分の興味あることについて新しい知識を増やして下さる方がおられて、話すのが面白かったです。

【担当者から一言】 田中魁人（大田市教育魅力化コーディネーター 大田高校担当）

今年度も、たくさんの生徒・地域の方にご参加いただきながらダイコウラボの場づくりを行うことができました。また、今年度に入って初めてラボにご参加いただいた地域の方や生徒も非常に多く、少しずつではありますが、ダイコウラボの取組が学校内外の人に知っていただけていることを実感しました。これからもより多くみなさんとダイコウラボを通して一緒に学び合い、この場を育てていけたらと思います。

▼校内でワークショップに取り組む生徒の様子



▼大森でインタビュー調査をする様子



▼福光石石切り場を見学する様子



▼E-BIKEの体験取材をする様子



▼商品開発の打ち合わせをする様子



【事業の目的】

学校と地域が連携・協働して学校運営に取り組む「地域とともにある学校づくり」を進める。

【今年度のトピック】

- ・市内6校が学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとなる。
- ・既設置校の学校運営協議会への参加。
- ・令和4年度学校運営協議会の設置予定校8校。

【今年度の成果】

- ・未設置校へのヒアリング及び市内既設置校での説明会の実施。
- ・設置校・未設置校に訪問し、課題などの実態把握を行った。
- ・地域に応じた取組が進められるよう、現場の声を反映。

【来年度へむけて】

- ・学校運営協議会が効果的で充実したものになるよう、研修の機会をもつ。

【事業概要】

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を導入した学校のことを指します。学校と地域住民・保護者等が力を合わせて学校の運営に取り組む「地域とともにある学校づくり」をより推進するための仕組みです。

大田市には、世界遺産をはじめとして日本遺産、自然・歴史・文化と誇れるものがたくさんあり、子どもたちはそれらの地域資源「ひと・もの・こと」に触れながら多くの学びや体験をしています。

一方で子どもたちを取り巻く環境も変わり、これらからの時代を生き抜く力を育んでいかなければなりません。そこで、未来の担い手となる子どもたちに必要な資質・能力を育むために、教育や人づくりに力を入れていきたいと考えます。地域総がかりで、学校・家庭・地域・行政が手を携えて、子どもたちの豊かな学びを支えていく必要があります。

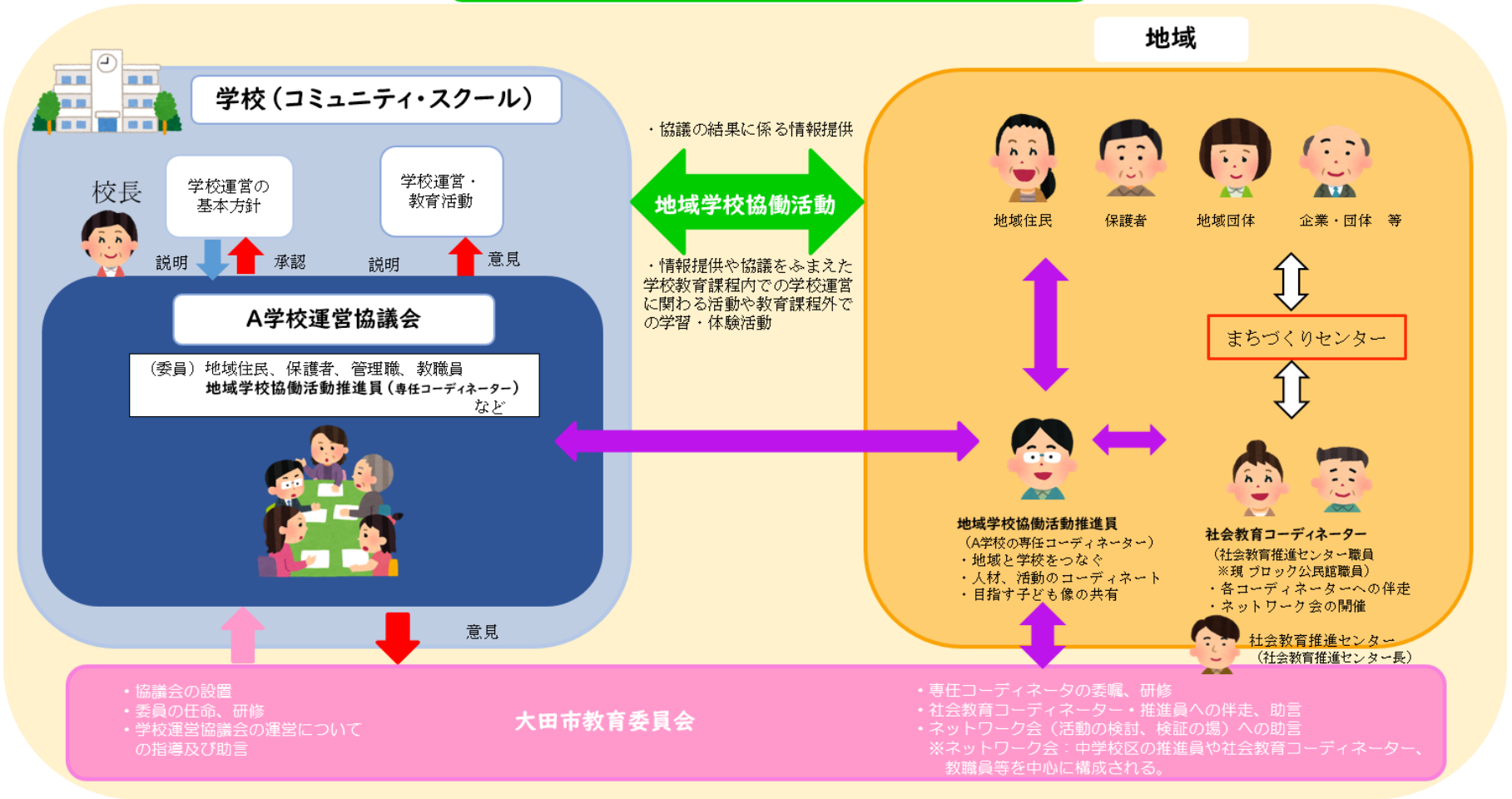
そこで大田市では、地域の未来を担う人材育成にむけた体制の構築が必要であると、地域の方が学校運営に参画できるしくみであるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入しています。

学校運営協議会を導入することにより、「目指す子ども像」やビジョンを学校と地域で共有し、「そのために学校・家庭・地域ができることは何か」と具体的方策を考えるなど、学校運営に地域の声を積極的にいかにすることができます。それにより、地域と一体となって、特色ある学校づくりを進めていくことができます。

【担当者から一言】（石橋圭子 派遣社会教育主事）

大田市では、現在14校がコミュニティ・スクールとなり、来年度は、大田小・長久小・静間小・鳥井小・大森小・高山小・第一中・第三中でも学校運営協議会が導入されます。市内全域で学校と地域とで連携・協働して子どもたちの学びや成長を支える土壌がより豊かになることを目指していきます。

学校と地域の連携・協働



【事業目的】

将来のふるさとを担う人材育成を目指した、大田市の教育魅力化「大田市内県立高等学校支援連携協議会主催事業」の中学校・高等学校交流事業の取組です。

【ふるさと夢未来講演会のねらい】

夢をもち希望をもって努力することによって夢を実現した実践者の話を聞いたり、「夢・未来・挑戦」をテーマに意見交換したりすることにより、「夢をもつこと、夢の実現に向かって努力すること」の大切さについて学ぶ。

【事業概要】「ふるさと夢未来講演会」

- ・令和3年11月1日（月）9：00～10：30（島根県立邇摩高等学校体育館）
- ・講師：株式会社植松電機 代表 植松努さん
- ・演題：「思うは招く」～夢があれば何でもできる～
- ・参加者：中学生・高校生 200名（市内小学校とはリモートでつなぐ）

【ふるさと夢・未来プロジェクト】

自分の夢や未来について考えるために、「事前学習」→「ふるさと夢未来講演会」→「事後学習」という流れで行いました。講演会を聞いた後の子どもたちの感想は、自分の「夢・未来」についての思いや考えが希望に満ちたものに大きく変わっていました。

講演後の講師との意見交換では、進んで自分の悩みや将来の夢について語る生徒もいて、講師の先生から明日への希望や活力につながる言葉をかけていただきました。

【成果】

- ・講演会は、リモートで市内小学校へも配信したことで、中学生・高校生だけでなく、小学生の参加もあり、小学生・中学生・高校生が同じ話を聞くことができました。
- ・子どもたちは、自分の「夢・未来」について真剣に考え、新たな気づきや思いをもつことができました。夢をもつことや夢の実現に向かって努力することの大切さ、すばらしさに気づき、希望あふれる講演会となりました。

▼ふるさと夢未来講演会での意見交換



【来年度に向かって】

来年度も、中・高合同事業として「ふるさと夢未来講演会」は計画していく予定です。来年度は、講演会後の中学生と高校生が意見交換する場を設け、交流の充実を図ります。

【担当者から一言】原田奈保子

（教育魅力化主任コーディネーター）

今年度から始まった「ふるさと夢未来講演会」ですが、大田市内の中学生と高校生の交流の場としては、意義ある取組であると感じています。

今後は、中・高生の交流の仕方など工夫していきたいと思えます。

【事業目的】

幼児教育施設から小学校への円滑な接続を目指して、幼児教育施設と小学校との連携を図ることを目的としています。

【事業概要】

- （1）大田市内16小学校、22幼児教育施設を訪問し、接続期の児童の様子、幼小連携の実態把握と課題について意見聴取した。
- （2）子育て支援課、教育委員会総務課、学校教育課との連携会実施
- （3）第1回幼小連携合同管理職会 12月22日
 - ・幼小連携の重要性について（幼児教育センター指導主事講話）
 - ・雲南市立斐伊小学校区の幼小連携（斐伊小学校区の幼小管理職の話）
 - ・幼小連携でできること（グループ協議）
- （3）第2回幼小連携合同管理職会 3月3日
 - ・接続カリキュラムについて（幼児教育センター指導主事講話）
 - ・演習「接続期の子ども見取り」
 - ・大田市の幼小連携・接続ビジョンについて

▼幼小連携に係る合同管理職会での研修



【大田市の幼小連携・接続ビジョン】

- （1）幼児期の教育と小学校教育の関係を「連続性・一貫性」で捉える。
- （2）幼児期と児童期の教育活動をつながりで捉える。
- （3）幼児期の教育と小学校教育の互いの教育の理解を深める。

【大田市の幼小連携のねらい】

- （1）学びに向かう力
- （2）幼児教育施設での生活から小学校生活への生活不適應の未然防止
- （3）特別な教育ニーズの早期把握と早期支援の開始

【大田市の接続期に育てたい子どもの姿】（3つの力）

- （1）学びに向かう力（学ぶことの楽しさを知る）
[好奇心、自己主張、自己抑制、がんばる力、ことば]
- （2）かかわる力（自分のよさを知り自信をもつ）
[協調性、豊かな心、自分や人を大切に作る心]
- （3）生活する力（体を動かし生活リズムを整える）
[いろいろな運動、望ましい生活習慣]

【担当者から一言】 原田奈保子（教育魅力化主任コーディネーター）
今年度から、幼小管理職会を行い、幼小連携の取組をスタートしました。今年度2回の合同管理職会を行い、幼児教育と小学校教育の相互理解を進めようという動きが出てきました。
次年度に向かって、「接続期の目指す子ども像議」「接続カリキュラム」「幼小合同研修会」など、合同管理職会を計画的に行い、幼小連携をさらに進めていきたいと思えます。

教職員合同研修会

【事業の目的】

- 市内の小・中学校、市内県立高等学校の教職員を対象に石見銀山学習・世界遺産学習に関わる主な施設等を視察し、大田市の地域理解を深め、子どもたちへの教育活動に役立ててもらう。
- 異校種の教職員が合同研修会に参加することで、石見銀山学習・世界遺産学習の小・中・高の取組について知る機会とする。

【事業概要】

- 日時 8月18日（水）9:00～12:00
- 場所 大森町並み交流センター（旧大森区裁判所）
町並み地区
- 参加者数 26名
- 内容 石見銀山資料館（いも代官ミュージアム） 仲野義文館長による講話 演題「石見銀山学習の可能性」
小・中学校、高校での石見銀山学習の事例紹介
コースにわかれて見学・体験
 - ①熊谷家コース・・・熊谷家での学習プログラム体験
 - ②町並みAコース・・・石見銀山資料館館長による説明を聞きながら、石見銀山資料館・熊谷家・旧河島家を見学
 - ③町並みBコース・・・石見銀山ガイドの方による説明を聞きながら、町並みを見学
（五百羅漢・栄泉寺・旧河島家・井戸神社・熊谷家・石見銀山資料館・城上神社 等）

【今年度のトピック】

- ・これまで、市内の小・中学校に初めて着任された教職員を対象に、大田市の地域理解と愛着を深めてもらうために研修が行われていました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、着任された教職員全員を対象に研修を行うことが難しい状況にはありましたが、大田市ならではの「石見銀山学習」について理解していただくことに視点をしぼって企画しました。

【今年度の成果】

- ・今年度は、「石見銀山」を1つのテーマとして小・中学校の教職員だけでなく、市内県立高等学校の教職員も一緒に研修できる場を設け、それぞれの学校でどのような石見銀山学習を行っているのか、大田市の地域資源にはどのようなものがあるのかを知ってもらう機会となりました。
- ・教職員にとって、熊谷家が企画した新規学習プログラムを体験する機会となりました。
- ・小中高の教職員が、「石見銀山を学ぶ」だけでなく、「石見銀山で学ぶ」「SDGs」の視点にも目をむけ、石見銀山を切り口に学習を発展させられることを知ることができました。

▼ 石見銀山資料館館長による講話の様子



- 地域の遺産であり、世界遺産でもある石見銀山で学ぶことの価値を考えることができた。「地球や人類を学ぶ教科書」という言葉がとても印象に残った。
- 石見銀山学習は、石見銀山について学ぶのみならず、石見銀山で学ぶことが大切であるということがわかった。また歴史のみでなく町づくりについても学べることを知った。学習の着地を考えて取り組みたい。
- 石見銀山という教育資源を通して、様々な学習に結びつけることができるとわかった。
- 銀山学習を通して、ふるさとを思い、島根、日本、世界へと視野を広げることが可能であると知った。まさに「ふるさとと島根を学びの原点に未来へはばたく心豊かな人づくり」につながる、とても大切で、可能性のある学習だと知った。
- 教員の幅広い識見が興味深く魅力的な授業をつくることにつながる礎となると再確認できた。

▼ 石見銀山学習の取組紹介の様子



- 小・中連携の取組よりもさらに広い小学校と高校と一緒に地域課題に取り組む活動があることはあまり知らなかった。他校での実践学習プログラムを例にして、今後効果的な学習を考えてみたい。
- 小・中・高それぞれの学習も大切だが、連携を取りながら、同じ学習の繰り返しにならないようにすることも大切だと思う。
- 石見銀山学習を学校で実践するにあたって、様々なアプローチがあり、SDGsにつながる取組をすることができるのではないかと考えた。
- 小・中の取組を知ることができよかった。本校は市外出身の生徒も多いため、小・中とのつながりを意識した学習は難しい状況である。よい連携がとれるとよい。

▼ 見学の様子



- 昔からのものを修繕し、守っていくことは大切であると見学しながら感じた。石見銀山学習は、歴史ばかり学習するのではなく、歴史を学習して、これからのことを考えたり、地域のことを考えたりすることにつながることもわかった。
- 見学することで、実際当時過ごしていた人々の暮らしが想像できた。小学3年生対象の授業もあると知り、本物の道具で当時の暮らし体験ができるのは魅力的だと感じた。
- 風呂敷を使った実習があったが、中学校の保健分野「傷の手当」にも三角布の使い方を学ぶ単元もあり、うまく活用できる方法を考えることができた。

【担当者から一言】（石橋圭子 派遣社会教育主事）

小・中・高の教職員が大田市の教育資源について合同で研修する機会はこれまでほとんどありませんでした。しかし、石見銀山という教育資源を切り口に小・中・高で多様な学習が展開されており、それをお互いを知る機会がもてたことは良かったと思います。今後もこのような場を創出していきたいと思います。

【事業の目的】

毎年2月は「おおだ教育月間」

大田市民の教育に対する関心と理解を一層深めるとともに、次代を担う子どもの育成を期し、家庭、学校及び地域社会が連携して大田市の教育の充実と発展を図るために、「おおだ教育月間」を設けました。

大田市教育委員会は、学校、教育に関係する機関及び団体、事業者並びに市民等と連携し、その協力の下、おおだ教育月間の趣旨に沿った取組を実施するとともに、広く市内への普及を図り、市民による主体的な取組を促進するものです。

【事業概要】

テーマ 「大田の魅力ある教育」

知る

考える

つながる

<メディアを通して、0歳～18歳までの教育に関わる取組を配信>

大田の子どもたちの活躍と教育に関わる魅力的な取組を皆さんに知っていただくため、子どもたちの学びや表彰の様子を動画にまとめ、ぎんざんテレビや大田市公式YouTubeチャンネルで大田市の教育に関わる取組をお届けしました。昨年度よりも、動画数が25本に増え、より多くの子どもたちの活動場面をご覧いただけるようになりました。

<配信>

●ぎんざんテレビ（ケーブルテレビ局）
【期間】令和4年2月1日（火）～ 27日（日）
土曜日・日曜日は、ダイジェスト版を放送

●大田市公式YouTube
【期間】令和4年2月7日（月）～ 令和5年2月

<ふるさと教育広報誌作成・配布>（※p.14参照）

市内小・中学校では、ふるさと教育に取り組んでいます。子どもたちは、大田市ならではの自然・歴史・行事・達人などについて理解を深め、ふるさとへの愛着や誇りを育てています。「ふるさと教育」には、多くの地域の方が関わってくださり、各校で特色ある学習が行われています。自分の住んでいる地域のことはもちろん、市内の魅力ある「ひと・もの・こと」について広く知っていただきたい思いから、その魅力ある学習を各校1つずつピックアップして、広報誌にまとめ、市内に全戸配布しました。

<おおだ教育フェスタの開催>

今年度は、映像配信に加え、様々な講演会や展示も企画しました。多様な視点から教育について考えることのできる講演会となりました。

【担当者から一言】（石橋圭子 派遣社会教育主事）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため昨年度から取組始めた映像配信ですが、ぎんざんテレビの協力のもと数多くの動画を作成し、視聴していただけることとなりました。「子どもや孫の様子が見られてよかった」と言っていただけ、少しずつ大田市の教育を知る1つの素材となっています。また、新型コロナウイルスの感染状況がどのようになるのかは不透明ですが、今後は大田市の教育について知るだけでなく、発表や対話等から、「考える」「つながる」ことに発展していけるように「おおだ教育月間」に取り組んでいきたいと思ひます。

▼映像配信

毎週土・日曜日 18:00～ダイジェスト版を放送!

「ぎんざんテレビLINE公式アカウント」を友だち追加すると番組内容のお知らせが届きます。▶
市役所1階ロビーで、ぎんざんテレビを放映中! お立ち寄りの際にぜひご覧ください。

YouTube 2月7日より大田市公式YouTubeチャンネルでも配信!!
YouTubeチャンネルは大田市民からご覧ください

お問い合わせ/大田市教育委員会 学校課 TEL 0854-83-8179 皆様のご感想・ご意見はこまらへ▶

▼「おおだ教育フェスタ」

令和4年3月12日(土) サンレディー大田 ふれあいホール

※2月8日の開催予定日から変更となりました

講師をお招きした講演会やパネルなどの展示コーナーもあります!

参加無料

1 たのしいカイロプラクティック教室 子どもの姿勢と生活習慣 10:00～11:30
講師 石橋圭子さん、松井香梨さん

2 ふるさと夢未来講演会動画上映会 思うは招く～夢があればなんでもできる～ 11:50～13:00
講師 権松 勇さん

3 おおだ教育未来講演会 だれもが輝く学びとは? 13:30～15:30
講師 福本理恵さん

展示コーナー 9:30～15:30

石見銀山 「日本遺産パネル」「銀ノ木谷橋穴・白石遺跡出土品」
社会教育課 「国立三瓶青少年交流の家 春初め活動の様子」
子育て支援課 「子どもの食と健康」「羊羹 春巻を 習ごはし」
「離分とりすぎいませんか!」[カワロ]とりすぎいませんか!」
学校教育課 「出雲養護学校大田分教室 活動の様子」
「鳥根県立出雲養護学校通学分教室 活動の様子」

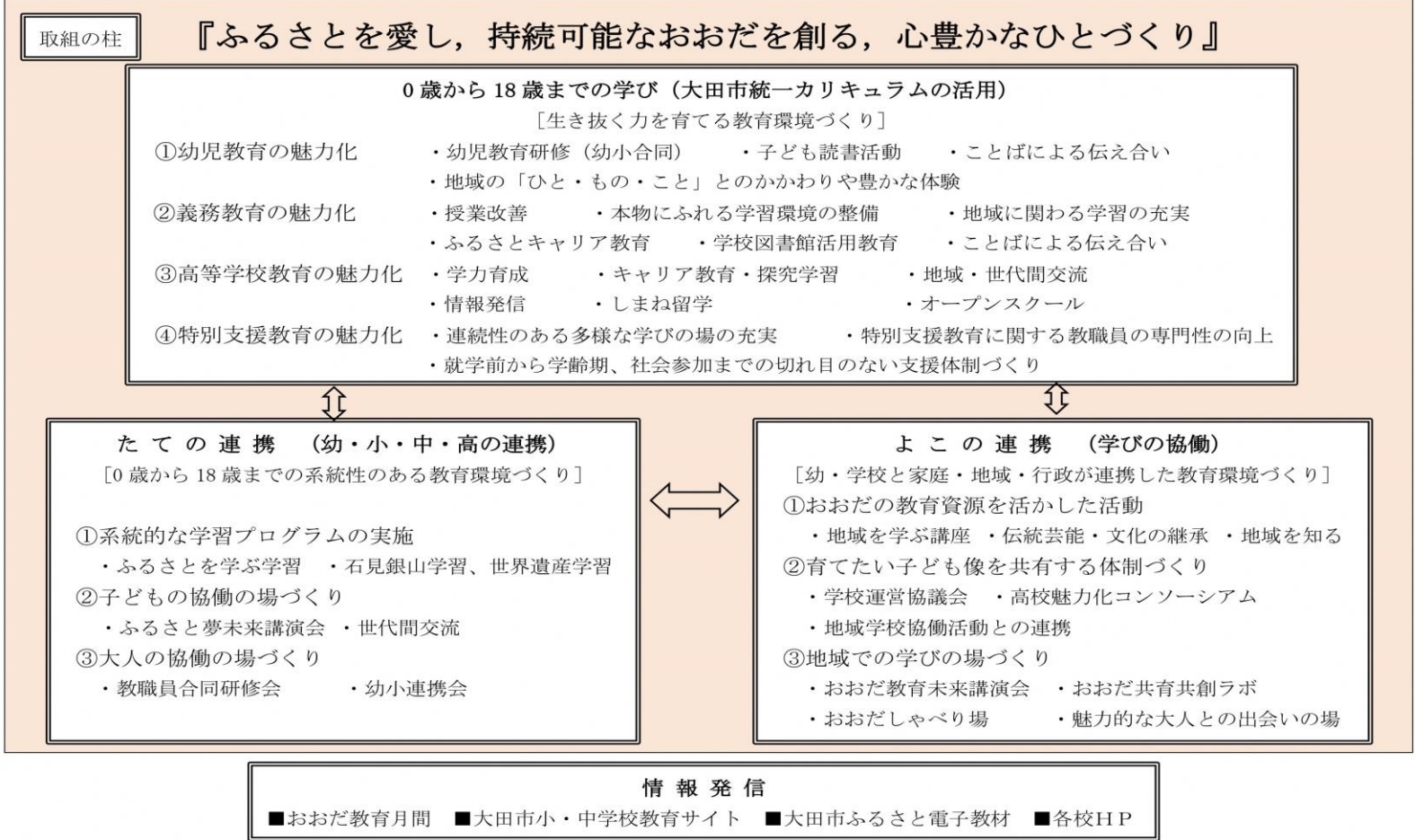
※サンレディー大田の駐車場が満車の場合は、市民会館前の旧警察署跡地に駐車することができます。

▼展示会場の様子



大田市Youtube

おおだ教育魅力化



おおだ未来☆夢ランド

令和4年度からの「おおだ未来☆夢ランド」（おおだ教育魅力化推進会議）の設置を目指して、令和3年度から設置規則の制定、委員選定、運営計画立案など設置に係わる準備を行ってきました。令和4年度からは、「おおだ未来☆夢ランド」で大田市の未来志向の教育について、様々な意見交換がなされ、大田市の教育魅力化の推進に大きく寄与するものと考えます。

【事業名】 「おおだ未来☆夢ランド」（おおだ教育魅力化推進会議）

【事業目的】 「おおだ教育魅力化推進会議」は、大田市における未来志向の教育について、多様な立場の関係者が主体的・創造的な議論を行い、大田市の子どもや大人の豊かな学びや健やかな成長を支援していくものです。大田市の教育の魅力化を一層推進していくという目的から、その愛称を「おおだ未来☆夢ランド」としました。

【内容】 次の事項について審議し、具現化することが会の目的です。

- (1) 未来志向の教育に関すること。
- (2) 一人一人の人権を大切に教育に関すること。
- (3) 地域とともにある学校づくり、地域の特色を活かした学びに関すること。
- (4) その他、教育の魅力化推進のために必要と認められること。

おわりに

令和3年度の教育魅力化推進係の取組を活動報告書にまとめました。今年度は、大田市の教育魅力化の取組の見える化を目標として、また、関係課との「連携体制づくり」にも力を入れ取り組んで参りました。今年度の教育魅力化の核となる4つの取組を通して、学校・家庭・地域が出合い、対話し、一緒に活動し、少しずつではありますが、着実に繋がりが広がってきていると感じます。この繋がりを活かして、子どもたちにさらなる魅力ある豊かな学びを提供することができるよう、今後も取組を進めて参ります。



次年度への展望

「教育の魅力化」用語解説

【持続可能なおおだ】

「おおだのもつよさ（自然・歴史・伝統文化・遺産・人とのつながり等）を守りつつ、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、大田市民が心豊かに生活できるおおだ。

【生き抜く力】

主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら、定まった答えのない課題にも粘り強く向かっていく力。

- ①多様で豊かな体験による確かな学力
- ②自立、共生する心
- ③たくましく健やかな体

【教育魅力化コーディネーター】

島根県における「教育の魅力化」事業のキーパーソン。県内では約40人のコーディネーターが教育魅力化のために活動中。活動内容や雇用形態は様々。学校の総合的な学習の時間に関わったり、学校経営そのものに重要な役割を果たしたり、部活動や寮中心に活動するコーディネーターもいます。雇用形態も様々。大田市の場合は、事業開始時の平成28年度は大田市の地域おこし協力隊として採用され、会計年度任用職員として活動しています。市町村の雇用ですが、席は各学校にある場合が多く、行政・学校・地域の間を奔走しています。なお、略称はCO。

【高校魅力化コンソーシアム】

和訳すると共同事業体。島根県が推進する高校魅力化事業における用語。目標やビジョンを、地域の住民や市町村、小・中学校、社会教育機関、地元企業等と高校とが主体的・創造的な対話を行いながら協働で策定し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」をつくるための、協働体制。簡単にいえば、高校経営を、高校だけではなく、地域のいろんな人を交えて行う体制のことです。

【探究学習】

探究学習は、自ら課題を設定し、解決に向けて、情報を収集・整理・分析したりしながら進める学習活動のことです。生徒の自ら学び、自ら考える力の育成をめざしています。

【コミュニティ・スクール】

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を導入した学校のことを指します。学校と地域住民・保護者等がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」をより推進するための仕組みです。CSとも呼ばれます。高校におけるコンソーシアムで構築される協働体制とも重なる部分が多い制度です。

【地域みらい留学】

島根の県立高校を中心に行っている生徒の全国募集事業。一部私学や小中学生対象の場合もあります。東京・大阪等で説明会を開催します。近年はプラットフォームが主催する全国の公立高校の生徒全国募集イベント「地域みらい留学フェスタ」と併催されています。

【山村留学事業】

1968年に長野で始まった都市と農村の子どもたちの交流事業。大田市では、1993年から小中学生向けの山村留学事業を行っています。夏休み等に行われる5日間の短期山村留学や、北三瓶小中学校に転入し、1年単位で自然体験活動を行う長期山村留学事業を実施しています。

【ふるさとキャリア教育】

魅力的なひと・もの・ことに出会い、学ぶことを通して、自分らしい人生を切り拓く力を養います。

【キャリア・パスポート】

文科省が推進する小中高で一貫的に行われるキャリア教育事業。子どもたちが自分のキャリア意識を常に振り返ることのできるポートフォリオ（ノート）を持つことで、キャリアに対する考え方や意識を向上させます。

【0歳から18歳までの子どもの育ちと学びのめやす】

子どもたちの『生き抜く力』を育てるために、0歳から18歳までの育ちと学びのめやす（大田市統一カリキュラム）を作成し、子どもたちが健やかに伸びていく姿を表わしたものです。子どもの発達段階に応じて付けたい力や関わり合い方等を示しています。

【地域学校協働活動】

「地域と学校とが連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく様々な活動」の総称。国が示している活動は「学校支援活動」「放課後子ども教室」「土曜日の教育活動」「学びによるまちづくり」「地域社会における地域活動」等があげられています。

【未来志向の教育】

自分の未来に夢や希望のもてる教育。未来を生きる子どもたちに、この社会が将来どう変わっていくかをイメージし、そのために自らがどのような力をつければよいかを考え、チャレンジしていくことを支える教育。

大田市教育魅力化プロジェクト 令和3年度活動報告書
(令和4年3月発行)

[発行先・問い合わせ]

〒694-0064 大田市大田町大田口1111番地

大田市教育委員会 学校教育課

教育魅力化推進係

TEL: 0854-83-8179

Mail : o-kyomiryoku@city.oda.lg.jp

